

PHOTO
ふなばし

特集 50万市民の健康を守る
船橋市の医療行政

1985 新春スケッチ
まちなかの文化財 (西向地藏)

広報ふなばし写真版

JANUARY 1月

vol. 5

隔月年6回発行



中央保健センターの夜間急病診療所

船橋市の医療行政

50万市民
健康を守る

の
る



「ベテランの先生だから痛くないよ」と励ます校長先生



市内92校の小中・市立高校を医師が巡回し行われる、破傷風、インフルエンザなどの予防接種



胸部X線車による児童・生徒の胸部レントゲン検査



児童・生徒の心電図検査



三種混合などの予防接種は市内20数か所の会場で行われています



予防接種は慎重に医師の問診が行われます



小児科医師による診察、相談、身体測定などが行われる1歳6か月児健康診査

永年市民が待ち望んだ市立医療センターには、他市にもあまり例がないユニークな機能が盛り込まれています。その代表的なものに、開放型病床「オープンベツト」があります。これは患者が掛かりつけの医師と共に、医療センターの優れた医療設備を利用しながら治療が受けられるという非常に便利なもので、全国でも2つ（北海道・市立小樽病院、岐阜県多治見市民病院）の病院にしか例のない画期的なものです。

同センターの「相談外来」も利用者の評判をよんでいます。これは医師会の役員が毎日、午後2時から4時まで無料で、様々な医療相談に応じてくれるもので、開設以来、多くの人たちがこの相談室を訪れています。

50万市民の健康を守るため、市では医師会の協力を得て、この他にも種々の事業を行っています。

35歳以上の女性を対象とした子宮ガン検診、各種健康相談などや健康増進教室、健康講座などが毎回定期的に中央保健センターで、また、保育園児や、児童生徒などの予防接種事業、災害時における医療救護対策などと多岐にわたっています。

なお、市は医師会と共同出資し、昭和55年3月に財団法人「船橋市医療公社」を設立、医療体制の整備と公衆衛生の向上に役立てています。

この医療公社では現在、医師会の指導と協力により、一般健康診査・結核検診などの住民検診、児童・生徒の心電図、尿・蛭（ぎよ）虫、胸部X線などの諸検診、市内事業所の企業検診などの事業を定期的に行っています。



中央保健センターの夜間急病診療所はもう10年を経過した

診療に当たるもので、昭和48年の開設時は全国でも非常にめずらしく、勿論千葉県では初めての画期的なものでした。満10年を経過した現在、既に約10万人もの救急患者がここを訪れ、治療を受けています。そして昭和58年10月、大橋和夫市長が市政10年を記念し、医師会と力を合わせ完成させた、「市立医療センター」の開院と同時に、この「夜間急病診療所」は徹夜体制の朝6時まで診療時間が延長され、一層の充実がはかられました。



私たちにとって最もかけがえのないものは健康です。どんなに裕福であっても、いくら優れた能力を持った人でも、その体が病に冒されていたら、どんなにか淋しいことでしょう。健康であることの素晴らしさ、有難さは計りれません。

市では、昭和58年10月10日に「スポーツ健康都市」を宣言し、健康で活力ある街づくりをテーマとした数々の施策を実施してまいりましたが、この市民の健康を守る、直接の仕事に携わって下さるのが「船橋市医師会」の医師の皆さんです。市は、この医師会の全面的な協力によって、様々な保健衛生事業を推進させています。

中央保健センターの「夜間急病診療所」もその一つ。これは内科系、外科系の医師が一人ずつ交替で、夜9時から救急の



公民館、集会所など市内各所で定期的に行われる一般健康診査



中央保健センターで開催される「健康増進教室」健康には栄養、睡眠、運動の3つが大切



一般健康診査は40歳以上の人を対象に心電図、胸部X線、尿、血圧検査、身体測定などが行われる



地域医療の確立をはかりたいと語る山崎医師会会長



企業検診は職場にいながらにして検診が受けられるので便利



医師会の医師が講師を勤める健康講座（中央保健センター）



X線撮影されたものの読影、判定作業が医師会の医師によって慎重に行われる（中央保健センター）



医師会の研究会、この日はスライドによって行われていた。



医療センターのオープンベッドで主治医と治療について打合せをする茂又院長（左から2人目）



オープンベッドは現在12床、現在増床の計画が進められている。



医師会と医療センターの医師・看護婦などによる合同勉強会が毎月定期的に行われる



医療センターの「相談外来」（無料）が医師会の医師によって月曜日から全曜日の午後2時から4時まで行われている

1985
新春スケッチ



新年の船橋にはいろいろな行事や風景があふれています。沢山の出入でにぎわう「初もうで」、寒さも吹きとばす「元日マラソン」「駅伝」、華やかな「成人式」、活気あふれる「中央卸売市場の初荷」、歴史を物語る大神宮「灯明台」の点灯式…。船橋には豊かな文化が息づいています。今回は、そのいくつかを紹介いたします。



出初式のハイライト——消防ポンプ車による一斉放水
(船橋オートレース場駐車場)



若黨会、の皆さんによる梯子のり「つり亀」の妙技



出初式で分列行進を観閲する大橋和夫市長(中央)
左は柳原義明消防局長、右は福田茂右衛門消防団長



大勢の人々にぎわった大神宮の初もうで



1月14日に行われた大神宮「灯明台」の点灯式



今年は8,783人の新成人が生まれました。
成人式は市民文化ホールで開催されました。



恒例の元旦マラソンは市内浜町の「京葉レディース健康マラソンコース」で開催されました



成人の日記念駅伝大会は運動公園を中心に北部地区をまわるコースで開催されました



1月5日は「初荷」。
中央卸売市場には大勢の人達が出てにぎわいました



新ちかのかの文化財

④ 西向地蔵
(にしむきじぞう)

所在地 市内本町2-23

旧九日市(このかち・現在の木町)と海神との境。古い和橋宿の大通り沿いに、これも古い石仏が幾つか並んでいる。土地の人は「西向地蔵」と呼んでいる。伝承によると、昔ここは罪人の処刑場だったという。すると、ある日この石仏群は、罪人達のために、彼等に代って、西方浄土にいらっしやるアミダ様への救済を祈ってくれたのかも知れぬ。

事実、阿弥陀(アミダ)さんもある。延宝八年(一六八〇)十月といふから五代將軍綱吉がいろいろあった末、何とか將軍職に就いた早々の頃のこと。お目当ての地蔵さんが立っている。

「万治元戌年十一月十五日」念佛講中間拾式人、岡女人拾六人、さんや村」と読める。さんや村は海神のこのあたりの小宇。万治といえは四代家綱の頃。あるいは市内最古の石仏か。

勤めの婦路、石仏さん達に会いにいったら、赤い西陽を受けて、いい顔してました。



50万都市の繁華街のどまん中に
こんなにもひっそりと立っている

ふなばし再発見 観光写真コンクール
作品募集中

市内の自然、年中行事や街角の片隅で感動した一瞬など「ふなばし」を撮影した作品を募集中です。ふるってご応募ください。

締切 3月2日(土) 必着
サイズ カラー、白黒作品とも四ツ切以上1人5点以内 組写真は1点とし、キャビネサイズで5枚以内
賞 推せん、船橋市長賞、市観光協会賞他(作品展示期間中、参観者の投票で市民賞)
応募先 船橋市役所商工振興課内観光協会か千葉県写真材料商組合船橋支部加盟店へ(商工振興課☎362472)



昨年はアメリカ、ヨーロッパをはじめ世界20数か国から大勢の外国の方々が船橋を訪れました。ことしは「国際青年」、船橋は今、国際交流の機運が高まっています。この1月14日には、オーストラリア・メルボルンの青年男女が親善のため大橋和夫市長（写真左）を表敬訪問しました。



スポーツで健康ふなばし こんにちは…

編集後記

新年あけましておめでとうございます。今年もこのPHOTOふなばしをよろしくご愛読くださいますようお願いいたします。さて今回の特集では、スポーツ健康都市づくりの基となる、市の医療行政と、その実際に直接たずさわってくださっている「船橋市医師会」の医師の方々を、その現場に取材させていただきました。日夜研さんに励まれる多忙さの中で、快く撮影に応じてくださったことを深く感謝いたします。今回の撮影でその全てには到底及ぶすべはありませんが、そのほんの一端でも読者の皆さんにご理解いただけたら幸いです。なおこのPHOTOふなばしを、より良いものにしてゆくため、皆様のご意見、ご指摘などどしどしお寄せくださいますようお願いいたします。